

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

論述式・記述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

I・IIがアジア史中心、III・IVが欧米史中心という出題範囲の大きな枠組みに変化はない。

その他トピックス(入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

第二次世界大戦からの出題が昨年に引き続き少なかった。

II Bの文章の一部が、Iの出題範囲と重複しており、ヒントになり得る。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述	マンチュリアの歴史	4世紀から17世紀前半におけるマンチュリア(今日の中国東北地方およびロシア極東の一部)の歴史について、諸民族・諸国家の興亡を中心に説明する300字論述。周辺諸地域への進出と周辺諸地域の国家による支配について、過不足なく書くことがポイント。周辺諸地域として中国以外の地域にも触れる必要がある。	やや難
II	A 記述	西アジアにおける文字の歴史	シュメール人による楔形文字から現代の各國文字までの西アジアの文字をテーマとして、オリエント史など古代史を中心に、現代まで幅広く問う問題。世紀などの時期を指定して、王朝・国家・都などを問う問題が多い。	標準
	B 記述	清の歴史	明末からアロー戦争までの中国史を、清の皇帝を中心に扱った問題。政治・社会経済・文化など幅広く出題された。	標準
III	論述	ヨーロッパ諸国のインド亜大陸への進出過程	16世紀から18世紀におけるヨーロッパ諸国のインド亜大陸への進出過程について、交易品目に言及し、ヨーロッパ諸国の勢力争いとも関連づけながら説明する300字論述。プラッシーの戦い以降の展開にも忘れずに言及したい。	標準
IV	A 記述 論述	結婚・相続を通じた有形無形の財産・権利の享受	古代ギリシアから中世までのヨーロッパ史を扱った問題。政治・社会経済・文化など、さまざまな分野から出題された。オクタヴィアヌスが帝位を継がせる者として養子とした「ティベリウス」を問うbは難。	標準
	B 記述 論述	「移民の時代」	「自由移民」と「強いられた移動」を中心に、19世紀以降の世界について問うた問題。小論述問題が5問あり、問題文の要求する論点を外さず、簡潔にまとめることが大切。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

近年、II・IVの記述問題や小論述問題でなかなか手強い問題が増えている。しかし、全体としては高等学校の学習範囲を越えるものではないので、教科書の内容を古代から現代まで「穴」のないように理解する学習を心掛けよう。そして、論述問題の出来が合否を左右するだけに、普段の学習のなかで、「歴史事象」の因果関係の理解に力点をおいて、「歴史の流れ」を正確に把握する学習を進めてほしい。また、中国史やイスラーム史、古代ギリシア・ローマ史など特定の地域・分野が毎年出題されているので、京都大学の過去問の研究を進めておくことは、有効な学習対策となるだろう。